

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑥

令和4年8月8日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑥ 「地域福祉推進事業」【福祉課】
開催日時	令和4年8月8日（月） 午後3時10分から午後4時10分まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、岡崎信久、細萱健一、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> 福祉部長 川本満男 同部次長兼福祉課長 近藤かおり 課長補佐兼福祉協働係長 岡藤彰彦 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>活動する団体はどの程度あるのか。特に前向きに活動している団体を2～3団体教えてほしい。</p> <p>⇒20団体ほどある。活動が活発な団体としては、西小学校区まちづくり協議会、小学生の見守り活動を行う草掛防犯ガード隊、道路や河川の清掃・整備を行う香流川をきれいにする会等がある。</p> <p>（委員）</p> <p>中長期の目標について、2025年頃までに地域住民の自主的な活動による見守りの体制等を構築するとあるが、見守りの体制とは具体的にどのようなものか。</p> <p>⇒自主的な活動の一例として見守り活動を挙げているに過ぎない。</p>
-----------------	--

今はスマイルポイントをきっかけに仲間づくりをしていた
だき、ボランティア団体が育成されていくことを応援してい
る。中長期的にはその団体が自主的に活動できると良い。

(委員)

団体でのボランティア活動はポイントの対象となり、個人が行う
ごみ拾い活動などはポイントの対象とならない。市は団体の活動を
推進していきたいということか。

⇒一人では大変な活動も、団体で行えば楽になることもある。ま
た、スマイルポイントを活用したボランティア活動を通じて、
市民同士のつながりをもってほしいという目的もある。共通の
地域課題があった時に、情報共有が可能になる。

(委員)

市が主催する事業に参加する個人にはスマイルポイントが支給
されているが、団体化推進の主旨と矛盾しないか。

⇒市が主催する事業の場合、市が参加者のとりまとめを行うの
で、その後つながり作りを進めていくことが可能なので問題な
い。

(委員)

ポイントをもらうことを目的として事業構成を検討する市民団
体とは、どういうことをしている団体のことか。

⇒あるボランティア活動をしている団体は市から補助金を受け
ているが、団体に所属している市民が個人としてボランティア
活動をした時にスマイルポイントの申請をすると、二重取りの
ような状況になってしまうため、制度設計に悩んでいる。

(委員)

・事業意図には、地域社会へ参加するきっかけ作りとあるが、き
っかけ作りとはなにか。今まで活動したことのなかった人が活動す
るようになることか。今は活動していないが過去に活動していた人
が、再び活動するようになることも含めるのか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけ作りが終わった後のエピソードも記載すると良い。 ・スマイルポイント制度はきっかけ作りとして有効だったのかを分析しているか。例えば、スマイルポイントをきっかけに、新たにある活動に参加し始めた人数を目標管理する等。 <p>⇒活動している人へアンケートをとったことはあるが、そのような意図では行っていない。項目を検討していきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>令和2年のアンケートによると、スマイルポイント制度が始まる前から既にボランティア活動をしていた人は86%で、スマイルポイントをきっかけにボランティア活動をした人は12%。アンケート結果からすると、スマイルポイントの効果は大きいとは言えない。事業費が約1億円だが、どう考えるか。</p> <p>⇒社会福祉協議会への委託費が1億円の内のほとんどを占めており、スマイルポイント事業としては年間600万円程度である。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマイルポイント制度によって、新たに地域に参加する人を増やしたいのか、一度離れてしまった人に再び地域参加してもらいたいのか、はっきりすべき。それに応じて、成果指標をより具体的にすると良い。 ・地域社会へ参加するきっかけを作った後のビジョンも考えると良い。 ・そもそもきっかけ作りとしてスマイルポイント制度が有効であったのかを分析し、その上で事業の今後について検討すべき。
---------------	--